



# ENGINEER®の MPDP ダイアリー



高崎 充弘

## 第1回 モノづくりニッポンに必要な「MPDP」

### [Profile]

東京大学工学部卒業後、三井造船入社。米国レンスラー工科大学で修士課程修了後、(株)エンジニアの前身である双葉工具に入社。2004年に同社代表取締役社長に就任。独自の「MPDP理論」によるニッポンのモノづくり立国を提唱している。

### 本稿の連載にあたって

発売以来10年間で累計148万本(2013年3月8日時点)の大ヒット商品となったネジザウルス。なかでもシリーズ最大のメガヒットが2009年発売の4代目「ネジザウルスGT」です。リーマンショック後の厳しい状況のなか、その成功要因を考え抜いて「MPDP理論」が誕生しました。

そして、今号より「MPDPダイアリー」と題して連載することになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

### モノづくり立国「ニッポン」の再生

サムスンやLGなどは苦戦する日本の家電メーカーを尻目に躍進を続けています。しかし韓国には日本の大企業を支えてきたような優秀な中小企業群がありません。これが彼らにとっての最大の弱点であり、日本に唯一残された希望の星であると思います。

しかしながら、東大阪などにも集積している中小・零細企業では受注が先細りし、後継者も見つからず、高齢の熟練技術者が数名で黙々と作業しています。手先の器用さ、きめ細かさ、勤勉さなど、素晴らしい資質を持ったモノづくり中小企業が根腐れしかかっており、このままでは数年以内に壊滅してしまうかもしれません。

その昔、ドイツと日本は東西のモノづくり大国といわれた時代がありました。ドイツは外貨を稼ぐ7割が中堅・中小企業。それぞれの分野でキラリと光るオンリーワン企業がたくさんあります。一方の日本では、大企業、しかも自動車、電機、機械、鉄鋼の4業種が9割を稼いでいま「した」(あえて過去形で……)。

日本の優秀なモノづくり中堅・中小企業が、下請けや孫請けとして大企業に依存するだけではなく、独自の製品を開発し、ドイツのように世界企業になってほしいと願っています。そのような産業構造に転換できれば、日本の強みが100%発揮でき、韓国や中国に対しても優位性を保つことができるのではないのでしょうか。

### 4つの必須アミノ酸：MPDP

日本のモノづくり中堅・中小企業が活性化するための有効な手段として、「MPDP理論」の活用を提唱しています。M(マーケティング)、P(パテント)、D(デザイン)、P(プロモーション)という4つの要素を意識した製品やサービスの開発を行うことで、大ヒットとなる確率が高まると確信しています。

これはネジザウルスGTの大ヒットから導き出した理論ですが、その後の新製品「鉄腕ハサミGT」にも応用した結果、同じようにヒット商品となっています。

中小企業において、MPDPの「P」が最大のボトルネックだといえるでしょう。当社ではこの問題を解消するため、従業員30名のうち7名が国家資格である「知的財産管理技能士」を取得し、業務に活用しています。中小企業の経営者・幹部だけでなく、大企業の研究者にも役立つベーシック・スキルですので、稿を改めてお話ししたいと思います。次号からは、これまで当社が実践してきたMPDPや、現在進行中のマル秘(?)事例をリアルタイムで紹介させていただきます。また、ネジタリアンの「ウルス」君との対談バージョンにもご期待ください!